

第三回陸平縄文ムラまつり開催

五月二十四日、陸平貝塚で「陸平縄文ムラまつり」が開催されました。

まつりでは、古代米の田植え体験、鹿肉の炭焼き、縄文食の試食、火おこし、石器・わら細工づくり、縄文〇×クイズなど、縄文の生活や文化に触れるコーナーがたくさんあったほか、熱気球の試乗会、太鼓の演奏なども催され、訪れた人々は楽しい祭りを満喫していました。

なお、「陸平貝塚」は、四月二十一日に国の文化財保護審議



霞ヶ浦の南岸に広がる緑に包まれた稲敷台地の北東部にあり、明治十二年に日本人の手で初めて発掘調査された貝塚です。東西二五〇m、南北一五〇mに及ぶ台地の斜面に点在する、大小八カ所から構成される大規模な遺跡は、縄文時代中期から後期を中心とした貝塚と考えられています。



貝塚は、縄文人が海から採ってきた貝を捨てたあとが地中に貝殻の層になって残っており、土器などの生活用具も発見されています。

●陸平貝塚とは



新潟都市圏総合整備推進協議会と新潟地域広域市町村圏協議会では、圏域内の小中学生を対象に、近隣市町村にある施設を知って利用してもらうと、圏域内の施設(三十九施設)を紹介した小冊子「夏休み!にいがた探検手帳」を作成し、学校を通じて子どもたちに配付しました。

この手帳を利用できる期間は今年の夏休みのみで、手帳には施設利用割引券が付いています。この夏休み中に、探検手帳を持っていろいろなまちを探検してみましょう。

新潟ふれ愛プラザからの お知らせ

●ふれ愛納涼祭
日時 八月二十二日(土) 午後六時~九時
●プール無料開放
日時 八月二十三日(日) 午後一時~三時、三時三十分~五時三十分

●ソフトバレー大会
日時 八月二十三日(日) 開会式:九時四十五分
参加申込 一チーム 千円
先着二十四チーム
●場所 新潟ふれ愛プラザ
●問い合わせ 新潟ふれ愛プラザ ☎三八一八-一〇〇

耳よきな情報

~広域情報ネットワーク~

〈新津市・水原町〉 あがの川大花火大会

阿賀野川を彩る夏の風物詩として、待ちきれない夏の一夜といえば《あがの川大花火大会》 尺玉、三尺玉、スターメインなど、夏の夜空に、たくさんの大きな光の華を咲かせます。

▶日時 8月14日(金) 雨天の場合、15日に順延 午後7時15分~8時30分
▶場所 阿賀野川河川敷 (新津市金屋・水原町分田)
▶問い合わせ あがの川大花火大会実行委員会事務局 ☎0250-24-2111 (新津市役所内)

〈潟東村〉

潟東村おまつり広場

▶日時 8月16日(日) 正午~午後9時すぎ
▶会場 村民体育館前とその周辺
▶内容 正午に泥んこカップ、4時にジャンボカレーサービス、4時30分に生バンド演奏や潟東太鼓、8時に民謡流しや仮装大会、9時に花火大会など、楽しい催し物がたくさんあります。
▶問い合わせ 潟東村役場 ☎0256-86-3111

ふる里物語

町史編さんだより(46)

焼山の分村

焼山の佐藤光男さんの庭先に、先代の与一さんが詠まれた歌碑が建ててあります。

朝の五頭 眺めて心清らかに 桑を求めて日暮れまで

この碑のある所から東を眺めれば、五頭山の五つの峰がはっきりと見え、美しいパノラマが広がっています。

この工事は、阿賀野川の水害を防ぐために、五泉市馬下から河口までの約四十キロメートルの川幅・中洲を整理し、曲流蛇行している沢海の部分を直線にしようとする大工事でした。

この工事に伴って、住居を移転しなければならなかった主な集落は、満日村(現新津市)の満願寺と沢海です。満願寺は、



昭和30年頃の沢海~焼山間の渡船 (沢海 北上 正幸氏提供)

百十五軒のうち百七軒が七日町地籍の土地へ移転し、耕地四十余町歩を失いました。沢海では、三百余町歩の耕地が三分され、百町歩は河川敷になり、川の向こう側の焼山の八十余町歩は飛び地、本村は僅か百余町歩に別れることになりました。問題は、焼山地区に耕地を多く持つ人たちです。耕作のために朝昼晩と川を越えることは、不便であり危険でもありました。このために、住居移転問題が持ち上がったのは、当然のことと思われま

いきました。取消し者が多くてたのは、耕地の売買や交換、小作地の権利の変更などが複雑で円滑に進まなかったからではないかと推測されます。そこで大正十一年一月に、「焼山郷移転後援会相談所」を作り、それらの問題解決に当たらせました。最終的に移転者は十九軒となり、十二年春から移転が始まりました。その三年前に第一号移転者となっていた清水長作さんは、旧阿賀野川の

俳句 (公募作品 高点句)

句題 虹・花火・蟻

虹消えて音たてて来る山の雨 掃かれても蟻はすぐ列整のえり
虹の輪の中の鉄橋貨車渡る 虹仰ぐ手は休まずに袋かけ
虹映し阿賀の流れの大いなる 打止めの少し間を置く大花火
兵の日の行軍に似て蟻の道 虹描く少女のクレヨン十二色
手花火の明りの中の一家族 舟下り橋を出てまた虹の橋

今井天花 高橋一夫 神田斗子 笠原茶山 今井天花 市村横雲子 坪谷耕雨 笠原茶山 笠原茶山 加藤喜秋



昭和36年4月 焼山の子どもの登校風景の1コマ (横越下 市村文雄氏提供)